

## 移植概念推進のための小・中学校生徒への出張講義とその反応

大石 慶子

東北大学病院臓器移植医療部  
レシピエント移植コーディネーター

**Key words:**  
transplantation, school education,  
brain death

### Lecture to Primary and Junior High School Students about Transplantation

Keiko Oishi

Transplant Coordinator, Tohoku University Hospital, Sendai, Japan

小・中学生の学校カリキュラムのなかに「いのちについて考える」「いのちの大切さ」をテーマとした授業を設けている学校が増えている。これまでの教科の枠を超え、地域や学校、子どもたちの実態に応じて環境問題、国際理解、健康、福祉等について学ぶことが目的とされ、さまざまな授業計画が行われている。仙台市では東北大学の各研究科の“出前授業”を企画しており、脳死・臓器移植についての授業枠を設けている。

今回、脳死・臓器移植についての授業を希望し、出前授業を行った小・中学校11校の児童・生徒へアンケートを行った。短時間の授業のなかでも真剣にいのちの尊さを学び、率直な意見を述べたアンケート結果であった。

#### 仙台市“出前授業”(表1)の目的

仙台市教育委員会の目的は、科学の楽しさ・面白さを体験することにより、独創的な学術研究を育んできた「学都仙台」の学術的伝統・成果を、子どもたちと大学教官との交流という形をとおして子どもたちに伝え、次代の学都を担う青少年の科学技術に対する関心を高めることである。

#### 「臓器移植」を授業のテーマにした背景

日本では15歳以下の臓器提供が法律で認められていないため、体の小さい臓器移植を必要とする子どもたちが移植を受けることができない。そのため日本では必然的に、生体ドナーを必要とするという大きなデメリットのある生体移植数が増加している。そのほか、渡航移植をせざるを得ない子どもたちも増え、近年国際的な社会問題となりつつあることを背景に、「いのちについて考える」「いのちの大切さ」を、臓器移植をとおして学ぶことができると考えテーマとした。また、東北大学で臓器移植を行っているため、仙台市内の子どもたちは報道により臓器移植ということばと触れる機会が多く、関心があると考えた。

#### 1. “出前授業”の対象

- 小学5年生 1クラス(35名)
- 小学6年生 1クラス(32名)
- 中学1年生 1クラス(40名)
- 中学2年生 3クラス(85名)
- 中学3年生 4クラス+数名(152名)(総合学習)

#### 2. “出前授業”の方法

授業の前に知りたいこと、疑問に思ったことを事前学習のもとに質問形式としてきた。(中学生)

別刷請求先：〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1  
東北大学病院臓器移植医療部 大石 慶子

表 1 “出前授業”の内容

花の不思議な世界	大学院生命科学研究科
宇宙から世界の水田農業を見る	大学院農学研究科
こうじ菌でプラスチックを分解する！	大学院農学研究科
からだの老化って、どんなこと？	大学院農学研究科
口の中は不思議がいっぱい	大学院歯学研究科
歯の痛み	大学院歯学研究科
地雷を捜す方法	東北アジア研究センター
生活に役に立つ化学物質の話	大学院理学研究科・化学専攻
地球と惑星のオーロラ	大学院理学研究科
地震って何だ？	大学院理学研究科
すばる望遠鏡で見る宇宙の不思議	大学院理学研究科天文学専攻
光の速さと1,000兆分の1秒の世界	大学院理学研究科物理学専攻
廃泥土のリサイクル体験—浄水泥土から園芸用の土を作る	大学院環境科学研究科
水は誰のもの	大学院環境科学研究科
色で測るイオンの濃度	大学院環境科学研究科
脳を知ろう(小学生編)	大学院医学系研究科
脳を知ろう(中学生編)	大学院医学系研究科
数を数える脳	大学院医学系研究科・生体システム生理学
心臓を聞いて見て触ってみて	加齢医学研究所
音と超音波	加齢医学研究所
「臓器移植」ってどんなこと？	加齢医学研究所
身近にある電気のはなし	工学研究科
プラズマロケットで行く未来の宇宙旅行	工学研究科

## 「脳死について」

- ・脳死が治ることはあり得ないのか.
- ・脳が働いていないのになぜ心臓が動くのか.
- ・脳死状態になった人が生きる方法.
- ・脳死は人の死といえるのか、など.

## 「移植について」

- ・移植を行うための費用(一般の人に払える範囲か)
- ・各臓器の日本国内での移植成功率について
- ・生体臓器移植と脳死臓器移植のメリット・デメリットは、など.

## 「子どもの移植について」

- ・なぜ15歳未満の子どもは日本ではなく海外で移植をするのか.
- ・日本では15歳未満の移植は無理なのか.

脳死とは何か、どのような状態か、費用がかかること、移植の種類についてなど、図書、インターネットなどを用いて詳細な情報を得ており高度な質問であった。また、同世代の子どもの移植に関しても情報を得ており、「どうして日本では子どもの移植はできないのか」という素朴な疑問が多かった。

## 3. “出前授業”後のアンケート結果

Q1. 「講義を聞いてどのようなことを感じましたか？」

## 「臓器移植について」

- ・日本ではあまりやっていないことも知りました.

- ・脳死の人がいるから臓器移植ができると思った。
- ・やっぱり自分が助かるには他人の助けが必要だとわかった，など。

「死”について」

- ・自分の死ぬことなんか考えられなかったけど，そういうことを考えるちょっとしたきっかけになりました。
- ・死について真剣に考えた。
- ・もし自分が脳死になったときの重大さと内容をよく理解できた。

「移植を待機している人について」

- ・移植をするまでにはとても大変な決断があるんだなあと思った。

「その他」

- ・家に帰ったら家族と考えたいと思いました。
- ・命についてあらためて感じさせられました。
- ・もうちょっと詳しく聞きたいと思った。
- ・今まで知らないことがたくさんあった。
- ・自分には全く関係のない話だと思っていたけど，関係ないわけではないと思いました。
- ・世界の脳死のとらえ方も知ることができた。

Q2. 「移植医療にあなたは賛成ですか？反対ですか？その理由は何ですか？」

賛成：179人(65%)

- ・生きたいと思う人がいるから。
- ・移植してほかの人が長く生きられる可能性があるから。
- ・治らない病気も移植すれば治ったりするから。
- ・それで人の命が助かるなら。
- ・移植することがとても良いことならそれでよいと思う。
- ・病気で苦しむ人が助かるなら。
- ・病気になった人がまた元気になれるんだったら。
- ・受けた人は受ければいい。
- ・無理やり臓器を提供したり，されたりするわけではないから。
- ・移植をして少しでも長く生きられれば良いことだと思う。
- ・移植で一つの命が助かるかもしれないから。
- ・人が生きなかったら移植して死んだ人の分まで生きてほしい。
- ・困っている人を助けることができるから。
- ・使えるなら使ってください。
- ・生きることに必要だから。
- ・手術で元に戻ったりする可能性があるから。
- ・人の寿命がのびるすばらしいこと。
- ・多くの人の役に立つから。
- ・生きたいという人を助けてあげたい。

反対：64人(23%)

- ・お金がかかるから。
- ・自分のものをあげたくないから。
- ・人の臓器を使って生きたくない。
- ・人のパーツまでもらって生きようと思わない。

どちらともいえない：34人(12%)

- ・移植賛成な者どうし生き延びてもらいたいから。
- ・反対の人は関わらなくてもいいと思う。
- ・どっちでもいいから。
- ・人によるから。

Q3. 「移植手術を受けなければ自分はいずれ死んでしまうとしたら、手術を受けますか？」

受ける：94人(34%)

- ・死ぬのを待つなら手術を受けて生きたい。
- ・拒絶反応が怖いから。
- ・自分を死なせるわけにはいかない。
- ・自分が死んだら家族が悲しむから。
- ・少しでも長く生きられるのなら移植を受けたい。
- ・移植手術だけに頼らず、できることをたくさんしていきたい。

受けない：99人(36%)

- ・そこまでして生きたいとは思いません。
- ・状態が悪化するまでは受けないと思う。

わからない：84人(30%)

- ・今はわからない。
- ・実際になってみないとわからない。
- ・すごく迷うと思う。

Q4. 「自分が、あるいは家族が脳死になったら臓器提供をしますか？」

する：117人(42%)

- ・必ずしたいと前から思っていました。
- ・自分の体の一部でほかの人が助かるのは嬉しいから。
- ・自分の死を無駄にしたくないから。
- ・臓器提供を待っている患者を助けられるなら提供する。
- ・眼球以外は提供すると思います。

しない：82人(30%)

- ・今、現在では提供しないと思います。
- ・家族なら考えるけど他人にはしない。
- ・自分の臓器が死んでからほかの人にいくなんて想像もできません。
- ・家族は生きていた時の意思を大切にしたいと思っています。

わからない：78人(28%)

- ・今は考えていない。
- ・その時になってみないとわからない。

### アンケート結果からわかったこと

授業を受けた子どもたちは、人の死に対して真剣に考えることができていた。非常に複雑で難しいテーマであるにも関わらず、脳死についてや臓器移植について十分に理解できていた。また、同世代の子どもの移植については関心も高く、移植を受けられずに亡くなられる子どもたちの現状を悲しく思うことができ、なぜ日本だけ移植ができないのかという疑問が多かった。

### 最後に

欧米では、小・中学校の授業で命の大切さ、ボランティア活動、環境問題、犯罪についてなどを積極的に教育するが、日本ではこのようなカリキュラムが少ない。日本でもこのような学ぶ機会が増え、そのなかで臓器移植を必要とする人、臓器移植を受ける人の理解が深まることを望む。

# “What you can do as a School and as a Teacher”



## What you can do as a School and as a Teacher

While the program will be adapted to meet the needs of participating schools, a number of initiatives typically make up the core of the program. Some initial ideas include:

- Regular inclusion of articles about organ and tissue donation in your newsletters and magazines
- Publishing articles about organ and tissue donation on your school's website
- Providing the Australian Organ Donor Register forms in both your school reports or letters home
- Displaying Australian Organ Donor Register brochures in the class room and common areas
- Displaying a poster or reprinted existing brochures in the staff room and classrooms
- Including messages supporting organ and tissue donation with or on employee pay slips (Available from Medicare)
- Inviting guest speakers to attend your parent meetings to present on organ and tissue donation
- Including a link on your home page to the Australians Donate website: [www.australiansdonate.org.au](http://www.australiansdonate.org.au)
- Supporting Australian Organ Donor Awareness Week, held nationally in February each year
- Promoting the schools' commitment to the issue through publicity in the mainstream media i.e. local paper.

\*List is provided by way of example only, and is intended to stimulate discussion on the range of activities that would be most appropriate and beneficial for your school. Each State has a Government Based Agency to ensure that you receive the variation you require. Please see the list below or your nearest agency.

ACT Organ and Tissue Donor Service 02 6244 2671  
 Donate Now! 08 9222 0212  
 LifeGift NSW/ACT 02 9229 4005  
 LifeGift VIC/TAS 1300 123 6200  
 LifeGift NT 08 9222 9222

「Australians Donate」HPより

財団法人 新南州臓器移植推進財団 | 巻二 |

トップページ | 臓器移植のこころ、もっと知りたい | 新南州内の状況 | 意思表明カード | 登録を希望される方 | 賛助会員加入 | 財団概要 | 文芸広場 (掲示板) |

臓器移植について | 臓器提供 | 臓器提供カード | 臓器移植を希望される方へ | 賛助会員 | 財団の概要 | 文芸広場 (掲示板)

### あなたの学校に講師を派遣します

## Relay for you ~学習会

臓器移植は「命のつながり」です。移植医療の現状を知り、命の尊さについて一緒に考えてみませんか？

無料・行事にご活用ください。  
 ※講師料・交通費、学校の費用負担はありません。

●派遣講師：新南州臓器移植コーディネーター 秋山 政人  
 ※県内全域で臓器移植に関する知識の普及啓発を行い、臓器提供の増進があれば24時間体制で現場につける経験豊かなコーディネーターです。

●派遣先：財団法人新南州臓器移植推進財団

●注 意：新南州 新南州教育委員会 新南州医師会

◆お申し込みから学習会実施までの流れ◆

申請書を作成へ  
 送付してください (FAX)

財団から学校の担当者に電話の連絡をします。

学校等が担当者と臓器移植コーディネーターで実施の日程の調整をします。

学習会の開催

お申し込みは右のFAX送信表 (PDF) をプリントして事務局まで送信してください。

お問い合わせ先  
 財団法人 新南州臓器移植推進財団事務局  
 新南州中央区新栄町4-1 新南州福祉保健局隣接棟1階  
 TEL・FAX：025-283-4880

▲このページのトップへ

「もっと知りたい」新南州内の状況 | 意思表明カード | 登録を希望される方 | 賛助会員加入 | 財団概要 | 文芸広場 (掲示板) |

「もっと知りたい」 | 新南州内の状況 | 意思表明カード | 登録を希望される方 | 賛助会員加入 | 財団概要 | 文芸広場 (掲示板) |

「新南州臓器移植推進財団」HPより



“出前授業”の様子